

科目名	教育実習 2					単位	2.0
担当教員	北島 知量・眞有 澄香						
授業形態	実技・実習	開講期間	集中	配当年次	4	授業番号	9116

●授業のテーマ

高等学校教諭の実践的理解、総合的な対応能力の習得

●到達目標

教育実習先の実習生として職務を積極的に遂行し、学校業務が問題なくできる。実習から教諭として生徒の気持ちを大切にされた指導、知識、実践的な技術等を体得する。実習にふさわしい教科の指導案を作成し、実践できる。教職に求められる総合的な能力を実践的に習得し、今後の自己学習・成長課題などを明らかにすることができる。

●学習内容(授業概要)

高等学校の教育現場において、主に実習校の指導担当者からの助言・指導を受けながら実際の職務に加わり、体験的に学ぶ。特に、教職に求められる知識や技術を具体的・実践的に理解し、教職に必要な対応能力や指導力を習得する。

実習期間中には、本学の指導担当教員が訪問し、実習校の校長・教頭・教育実習主任・指導担当者の協力も得ながら、実習の充実に向けた指導・調整を行う。

●学習内容(授業計画)

それぞれ配属された実習校において、2週間の教育実習を行う。

学生は、下記の事項について実習指導者の指導を受ける。

- ア 実習校の教員や生徒、職員、保護者等とのコミュニケーション、円滑な人間関係の形成。
- イ 生徒の理解とその成長過程に対応した指導計画の作成。
- ウ 生徒との信頼関係の構築やコミュニケーション能力。
- エ 生徒やその関係者への理解を深める。
- オ 「総合的な学習の時間」への対応。
- カ 「課外活動」への参加。
- キ 学習指導案の作成
- ク 学級運営の実際。
- ケ 生徒指導における支援や理解。
- コ 実習校の地域社会における存在意義への理解。

担当教員は、巡回指導により学生の実習状況を把握して個別指導を行うとともに、実習校の校長・教頭・教育実習主任・担当指導者との連絡・調整を図る。

●準備学習・事後学習の内容

実習前には実習課題を明らかにし、それを現場でいかに学び深めるのかという心構えや準備を怠らないこと。また、十分に教科内容を予習しておくこと。実習後には、実習体験によって得た具体的な問題点や課題、反省について整理し、まとめておくこと。また、今後の自己学習の向上に向けた振り返りを行い、課題を明

らかにすること。

●成績評価方法・基準

実習への意欲や取組（20％）に実習校の評価（80％）を合わせて、総合的に判断する。

●テキスト（必携）

随時資料を配布する。

●参考文献／その他

特になし。

●履修上の注意

教職は多種多様な側面を持ち合わせており、実習生も様々な役割を課せられることが多い。事前に、十分な心構えや準備が要求されるので、曖昧な気持ちで実習登録しないこと。また、実施時期は、そのつど掲示されるので十分に注意すること。なお、実習期間中の遅刻・欠席は認めない。